



新年のご挨拶

皆さま、新年明けましておめでとうございます。清々しい気持ちで、2020年、令和最初の新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年も多くの患者さんをご紹介いただくなど当センターの運営にご協力いただきましてありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の医療連携ニュースには、「平成最後の年の新年をお迎えになられて」と書きましたが、今年は令和最初です。わずか1年ですが、長い時間の経過があったように感じるのは、新天皇の即位など社会的にも重要な行事があったことに加えて、昨年も大きな台風の被害など重大な出来事が多くあったからでしょうか。想像を超える自然災害もこれだけ続きますと、もはや「今までに経験したことのない」という言い方は不適切で、当然、すべての医療施設で自然災害に十分な備えと普段の訓練をしておくことは必須と思われます。当センターは、周産期と小児の災害拠点病院としての役割を担っています。昨年は、多くの職員が協力して事業継続プラン(BCP)を策定いたしました。災害時にも連携施設の皆さまにできる限りの支援ができるよう心がけたいと考えています。

当センターは、一昨年大阪府の小児救命救急センターの認定を受け、重篤小児救急医療を開始しました。本年からは、外傷を含めた救急医療機能をさらに拡充し、ますます皆さまから頼りにしていただける病院となるべく努力いたします。地域に貢献できることこそ、われわれ母子医療センターの重要な役割と考えています。皆さまのご協力とご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

今後も当センターは、ハイリスク妊産婦、病的な胎児、未熟児や小児の希少・重篤な疾患に対して高度・専門的医療を提供することが最大の使命ですが、加えてローリスクな妊産婦も担当し、小児の内科・外科疾患に幅広く対応する必要があると考えています。もちろん、小児医療の専門家集団として common disease に対しても常に質の高い医療を提供いたします。加えて、慢性期疾患患者の在宅医療や移行期医療にも積極的に取り組みます。昨年から大阪府の移行期医療支援センターも担当しております。

2018年12月に「成育基本法」が成立し、昨年末から施行されています。この法律は周産期・こども医療には追い風になるものと期待されます。当センターでも長く取り組んできた、妊娠期からの虐待防止、産後ケアなどの母子保健事業にますます力を入れたいと考えています。本年も、地域の医療従事者の皆さまのご指導とご支援をよろしくお願いいたします。



総長 倉智 博久



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

小児外科

小児外科は、1981年10月に当センターが開設されたと同時に診療を開始した伝統ある診療科です。現在はスタッフ5名にレジデントを加えた8名で日夜診療に励んでいます。



小児外科スタッフ



年間約600例の全麻下手術・検査を行っており、うち約50例が新生児外科手術です。新生児外科疾患、消化器外科疾患、呼吸器外科疾患、悪性腫瘍などの専門的疾患のみならず、鼠径ヘルニアや急性虫垂炎、漏斗胸などの日常外科疾患も積極的に治療しています。最近では3分の1以上の症例に対して手術痕が目立たない内視鏡外科手術を行っており、低侵襲で術後の回復も早いため早期退院が実現しています。2018年からは食道閉鎖症、胆道拡張症、先天性横隔膜ヘルニアに対しても内視鏡外科手術を実施しています。

当センターで手術を受ける最大のメリットは、経験豊富な小児専門の麻酔科医が麻酔を担当し、小児に特化した集中治療医が術後管理を行ってくれることです。昨年より当センターは小児救命救急センターに指定され、2019年末より二次的救急も開始しました。当科が中心となった外科系当直医が外科系救急疾患全般の初期対応を行いますので、小児の外科系救急疾患は、一層スムーズに受け入れ可能になります。

今後とも地域の医療に貢献して参りますので何卒よろしくお願いいたします。

(小児外科 主任部長 白井 規朗)

母子保健調査室

の 紹 介



母子保健調査室スタッフ

母子保健調査室(旧地域保健室/企画調査室)は、当センター開設と同時に1981年に設置されました。医師、保健師、助産師、看護師、ホスピタルプレイス、司書、事務員の総勢37名が在籍しています。

保健師等によるセンター利用者の地域生活支援の調整や保健指導、また、年報やセンター医学雑誌の発行、府民公開講座を行っています。年報はホームページで、医学雑誌は医中誌やメディカルオンラインでご覧いただけます。連携医療機関の先生方には、当センター図書室で文献検索サービス等をご利用いただくことができます(平日9時~17時)。国内外からの多くの研修生・見学者を受入れ、他の医療機関に勤務する保健医療従事者の方々が実地修練生としてセンターで学んでいただく手続きも行っています。

また、児童虐待防止医療ネットワーク拠点病院(府委託事業)としての事務局を行っており、特に救急告示医療機関の皆さまには症例検討会や連絡会などでお世話になっています。“思いがけない妊娠”に関する相談に対応するため、「にんしんSOS」電話・メールの窓口を設けており、緊急性のある場合には、連絡先をお聞きし地域保健医療機関にご紹介することもあります。当センターは、エコチル調査(環境省委託事業)を実施する15ユニットセンターの一つで、大阪では約8千人の子どもが13歳になるまで、お母様のお腹にいる時から調査にご協力いただき、環境と健康との関連などについての疫学調査を行っています。今後も疾病情報登録調査などで医療機関等の皆さまにお世話になりますがよろしくお願いいたします。

このように様々な分野で、医療・保健・福祉・教育機関等の皆さまと連携した業務を行っており、引き続きご支援賜るようお願いいたします。

(母子保健調査室長 植田 紀美子)

小児救命救急センター開始後のご報告とお願い



昨年11月に、当センターは大阪府より小児救命救急センターの役割を拝命しました。その後1年で、病院間搬送による救急患者88名、救急車を利用しての現場直入患者51名を集中治療科で受け入れました。

多発外傷など受け入れできない症例もありますが、できる限りすべての要請にお答えするつもりで頑張っています。もし結果的に軽症で、集中治療の適応でなかったとしても、全く問題ありませんので、どんどん当科のホットラインにお電話ください。

また、当科では搬送して下さった患者さんの経過を必ずご報告するようにしております。その経過も含め、こちらの対応などで問題があれば、ご連絡ください。より気持ちよく、そして安心して患者さんを紹介していただけるよう、これからも努力してまいります。今後どうぞよろしくお願いいたします。(集中治療科 主任部長 竹内 宗之)



PICUホットライン
0725-56-1070

移行期医療支援センターを開設しました



HPを開設予定です。活動をご覧ください。

<https://ikoukishien.com>

小児期発症慢性疾患患者の多くは、疾患を抱えたまま成人期を迎えます。医療の主体が養育者から本人になり、加齢による原疾患に伴う合併症や身体面・精神面の変化などに対し、適切な医療を生涯に渡り受け続け、よりよく生きられる仕組みが必要になってきました。これが、**小児期医療と成人期医療を繋ぐ懸け橋となる「移行期医療(トランジション)」**です。

子どもの発達段階に見合った自立支援とシームレスな医療体制の提供の両面が必要で、その実践のために移行期医療支援センターの設置を国が各都道府県に通達しました。2019年4月1日、大阪府は全国に先駆けて大阪母子医療センターに開設しました。

第6回地域医療連携研修会を開催しました



2019.9.28(土)あべのハルカスにて開催し、院内・院外より約110名の方にご参加いただきました。

当センターから

小児循環器科が「小児カテーテル治療の最前線」、小児神経科が「てんかんとうまくつきあう」の2つの講演で、当センターの医療内容を紹介いたしました。

特別講演会

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学教授の大藪恵一先生に「骨系統疾患の包括的医療」と題してご講演いただきました。

情報交換会

特に連携が求められる診療科の紹介をいたしました。また、地域の医療機関の皆さまからもご意見やご要望を聞かせていただき、より連携を深める機会となりました。

JICA研修を実施しました

当センターでは、独立行政法人国際協力機構 (JICA) 関西センターから委託を受け課題別研修「周産期・新生児保健医療」を実施しています。

2009年から始まったこの研修は今年で11年目になります。



9月30日～10月18日までの間、カンボジア1名、ホンジュラス1名、リベリア1名、ナイジェリア2名、タジキスタン1名、ザンビア1名、ミャンマー2名の全世界7カ国9名の医師、看護師が当センターの産科・新生児科・看護部で研修を受けました。

子育てフェスタ(2019.10.19)、大樹の会(2019.10.6)を開催しました

毎年恒例の子育てフェスタ。
今年も10月19日(土)に開催しました

- 地域の育児サークルによる育児用品のバザー
- 協賛企業(4社)やおおさか多胎ネットによるブース出展
- セブイレブンによるドリンクサービス
- 栄養管理室による食育コーナー

があり、約600人の家族連れで賑わいました。



ほかにも、

- 妊婦体験
- 赤ちゃん人形抱っこ体験
- お医者さん・看護師さんになってみようコーナー
- モコニャン撮影会
- モコニャンの折り紙教室

など、多くの子どもたちの笑顔であふれていました。
また来年も皆さまのご参加をお待ちしております。

「大樹(たいじゅ)の会」の運動会が開催されました

「大樹の会」は出生体重1500g未満で、
新生児棟を退院された子どもたちとその家族が対象です。
今年も23家族86名の参加がありました。



2019年10月6日(日) 鶴谷体育館

モコニャン、アンパンマンも応援してくれました。

パプリカのダンスで準備運動をし、福笑い、障害物競争、綱引きをして楽しく過ごしました。

医師・看護師・心理士・保育士さんや入院中に一緒だったママ友同士の久しぶりの再会で盛り上がりました。
退院後の子どもたちが元気に成長した姿を見せてくれ、笑顔いっぱいの運動会でした。

ハイハイ
できたね♥



アンパンマンの
顔でできたよ♪

2019年度 イブニングセミナーのお知らせ

- ・大阪府医師会生涯教育研修システム1単位
- ・日本小児学会 新専門医制度iii小児科領域講習1単位 に認定されています。

引き続きイブニングセミナーを開催します。お気軽にご参加ください。

Evening Seminar

対象 医療関係者

時間 17時45分~19時00分

場所 研究所1階大会議室

事前申込 不要

(直接、会場にお越しください)

●2020年1月22日(水)

「小児の腎移植」 泌尿器科 / 矢澤 浩治

●2020年2月6日(木)

「小児への急性期リハビリテーション」 リハビリテーション科 / 田村 太資



Hospital
Tour

地域の医療機関の皆さまに、より当センターをご理解いただき、いつでも安心して患者さんをご紹介いただけるよう、イブニング
セミナー開始前の16時45分より **病院見学ツアー** を開催しています。ご興味のある方は是非ご参加ください。

参加ご希望の方は事前に参加者の氏名・医療機関名・職種・人数をご連絡ください。

【お問合せ】 患者支援センター TEL: 0725-55-3113 (直通)

交通のご案内



診察時間 : 平日 9時~17時30分
予約受付時間 : 平日 9時~19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】 MAIL: chiren@wch.opho.jp

医療者対象
ホットライン
(※24時間受付直通)

PICUホットライン

☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン

☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン

☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望は FAXにて患者支援センターにお寄せください。